

# われら森レンジャー

- 1 趣 旨 グループごとの実験や体験活動等をとおして、環境に対する関心や環境保全に取り組もうとする意欲を高める。
- 2 期 日 令和3年8月7日（土）～9日（日） 2泊3日
- 3 主 催 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森  
※講師 渡島総合振興局東部森林室普及課職員6名、木族工房 永井 将人氏と他3名
- 4 参加対象 渡島管内の小学校4年生～6年生の児童 48名
- 5 参加実績 48名（小学4年生16名、5年生18名、6年生14名）
- 6 プログラム内容

				13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
				1日目	開 会 式	フ ア イ ス ブ レ イ ク	環 境 ク イ ズ	活動① サイエンスタイム		夕 食	環 境 ク イ ズ	入 浴	退 り 送 り	就 寝		
2日目	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	起 床	洗 面	朝 食	準 備	活動② 林業職人になろう!		昼 食	活動③ My椅子づくり		夕 食	活動④ スウェーデン トーチ		入 浴	交 流	就 寝	
3日目	7	8	9	10	11											
	起 床	洗 面	朝 食	準 備	活動⑤ みらいの木	閉 会 式										

活動①「サイエンスタイム」…二酸化炭素濃度と光合成の関係などを調べる実験  
 活動②「林業職人になろう！」…除伐をしたり、丸太を切ったりするなどの林業体験  
 活動③「My椅子づくり」…間伐材を使用した椅子の創作活動  
 活動④「スウェーデントーチ」…スウェーデントーチの火を囲み、振り返り  
 活動⑤「みらいの木」…学習したことのまとめ

## 7 活動の様子

### (1) アイスブレイク

初めは指導者と参加者の緊張をほぐすためのゲームを行った。自己紹介を取り入れ、少しずつ交流できるように進めることによって、班活動がしやすい雰囲気を作ることができた。

### (2) 環境クイズ

地球環境に関するクイズをとおして、学習を行った。地球温暖化やその他の環境問題について、各班で話し合いながらクイズに答えていた。



### (3) 活動①：サイエンスタイム

植物の光合成の仕組みを学習してから二酸化炭素濃度を調べる実験を行った。参加者は気体検知器で自動車の排気ガスを調べたり、呼吸を含んだ袋を植物にかぶせ、濃度の変化をまとめたりした。



### (4) 環境クイズ②

実物の木の葉や幹に触れながら、針葉樹と広葉樹が蓄積できる二酸化炭素量や林業の役割について学んだ。森林を守るための重要なポイントを3つにまとめ、クイズ形式で理解を深めた。

(5) 活動②：林業職人になろう！

バスで施設近くの町有林へ移動し、渡島総合振興局森林室普及課職員を講師に迎えて林業体験を行った。参加者は木の間隔を広げ、成長を促進させる間伐作業を見学したり、伐採した木を使いやすい大きさに切る「玉切り」を体験したりした。また、人工林を繰り返し使えるように整備し続けることの重要性を説く講師の話真剣に聞いていた。



(6) 活動③：My椅子づくり

施設周辺の林から切り出された道南杉の間伐材を利用したオリジナルの椅子作りを行った。講師からは椅子の組み立て方の他に、SDGsの視点を踏まえた資源を無駄にしないことの大切さについて説明を受けた。参加者は、間伐材の有効活用について理解を深めながら、椅子作りに励んだ。



(7) 活動④：スウェーデントーチ

間伐材を使用したスウェーデントーチを体験した。参加者はトーチを囲み、揺らぐ炎を見つめながらグループごとに活動を振り返った。



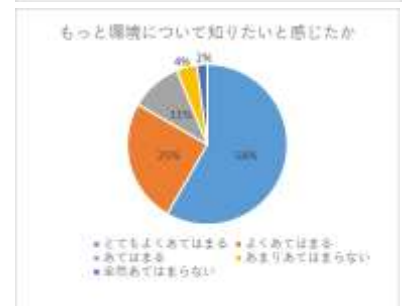
(8) 活動⑤：みらいの木

森を守り住み良い環境にしていくための取組についてまとめを行った。参加者は森林を保護することや森を繰り返し活用できるようにする林業の大切さなどを確認した。また葉っぱの形をしたコメント用紙に願いごとや自分で取り組んでみたいことなどを書き込み、木をかたどった掲示板に貼り、活動全体を振り返った。



8 参加者アンケート・ふりかえりシートの結果から（抜粋）

子どもたちは「森林を保護することや森を手入れし、繰り返し活用できるようにすることが大切」など、森林を守ることの重要性を概ね理解していることがわかった。楽しかった活動として最も多く挙げられていたのは、スウェーデントーチで、「初めて体験したから」という理由であった。林業体験は、「木を切る大変さを知った」「なかなかできない貴重な体験だった」など、子どもたちにとって有意義な機会になったことがわかった。椅子の制作では「間伐材で資源を有効に使える」「森林を守ることで環境破壊を抑えることができる」など、林業の役割と環境保全の関係について理解していた。



## 9 事業の分析と考察

- ふりかえりシートでは、「森を守ることで環境保全につながっている」の記述が多かったことから、外部専門家との連携により一貫性のあるプログラムの展開をしたことによって、事業のねらいを概ね達成できたと考えられる。
- IKR調査では、すべての項目の数値が上昇した。特に「積極性」の伸びが著しく、参加者が主体的に活動し、自信をつけたと考えられる。

## 10 今後に向けて

今回の事業は外部講師から当日の活動の他に、事前の準備やプログラム構成へのアドバイスを得るなど全面的な協力を受けたことにより、活動のねらいを十分に達成できたと考える。今後の主催事業においても必要に応じて様々な専門家からアドバイスを受けたり、講師として協力を得たりして、ネットワークの拡充を図りながら、より質の高い事業を展開していきたい。